



「のびゆくこども (通知表)」を改定しました。

「のびゆくこども」は、児童の持つ可能性を引き出し、さらにはがんばろうという意欲を持たせることを願って、学習や生活の様子をお知らせするものです。

ここに示されている評価は、児童のすべてとは言えません。よいところはほめ、努力が必要などころには温かく励ましていただければと思います。

今年度は、1学期が短かったため、前期と後期に分けて「のびゆくこども」を作成し、渡すことにしました。前期は、分散登校の始まった6月～10月30日までの学習や生活の様子について評価し記入しています。

主な変更点

1、配布形式の変更

毎学期の「のびゆくこども (通知表)」を印刷して配布いたします。**返却の必要はありません。**ご家庭で大切に保管ください。

(ファイルには挿入いたしません)

2、評価項目の変更等

① 観点別学習状況の評価について：4観点から3観点へ

(国語・算数・理科・社会・音楽・体育・図工・生活・**外国語**)

旧 (昨年度まで)

学習評価の4観点

- 関心・意欲・態度
- 思考・判断・表現
- 技能
- 知識・理解



新 (今年度から)

学力の3要素

(学習指導要領)

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

観点別学習状況の評価とは、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況がどのようなものであるかを観点ごとに評価し、児童生徒の学習状況を分析的に捉えるものです。(文部科学省 国立教育政策研究所)

②「総合的な学習の時間」：おこなった学習で特に力を発揮したねらいに○をつけています。3つの観点に照らして、具体的な目標や内容に基づいて学習状況をあらわしています。

知識・技能：探求的な学習の過程において、課題解決に必要な知識・技能を身につけ、課題にかかわる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解している。

思考判断表現：自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ表現している。

主体的に学習に取り組む態度：探求的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いによさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

③「特別な教科 道徳」：目標に照らし、児童の成長を積極的に受け止めて認め、励ましていくとともに、児童が自己の成長を実感でき、よりよい生き方につなげていくことができるように学習しています。多面的・多角的な見方ができているか、自分自身との関わりの中で深めているかを評価し、文章で記述しています。**(年度末に1年間の学習について評価します)**

④「外国語活動」(3・4年生)：3つの観点に照らして、児童の活動の観察や自己評価の分析、発表や作品の作成へのパフォーマンス評価など、多面的・多角的に評価しています。学習状況の中で、特に顕著な事項を文章で記述し、児童にどのような力がついたかを表しています。(今年度より)

外国語活動・総合的な学習の時間・特別の教科である道徳、特別活動については、個人内評価=それぞれの特質に応じ評価します。観点別学習の状況の評価や評定には示しきれない児童一人ひとりのよい点や、可能性、進捗の状況について評価するものです。

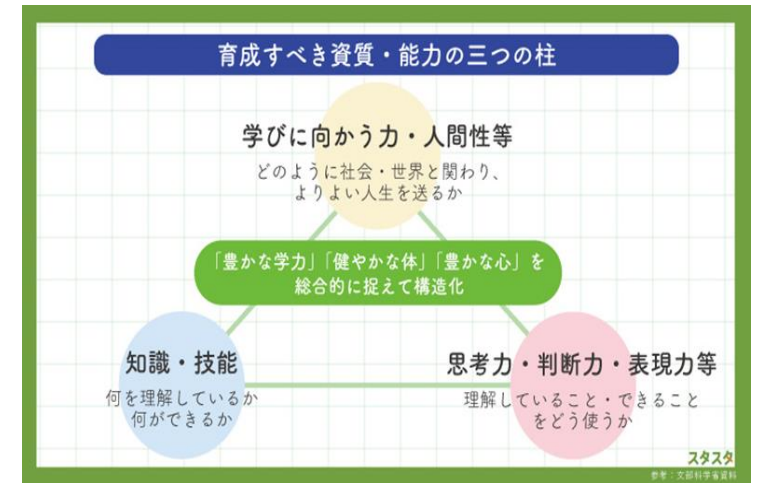


3つの観点について

本年度(2020年度)から新学習指導要領がスタートしました。(学習指導要領とは、国が定めた「教育課程の基準」です。学校教育法施行規則第52条、74条、84条及び129条等より)

新学習指導要領においては、児童・生徒が学校教育の中で身につけるべき力について、3つの観点に絞って説明しています。

それは、①「個別の知識・技能」②「思考力・判断力・表現力等」③「学びに向かう力・人間性等」の3つです。これらの3つの力を教育課程全体や各教科での学びを通じて、それぞれバランスよくふくらませながら、一体的に育成していきます。この力こそが新時代を生き抜くために必要だと、新学習指導要領では述べられています。



① 知識・技能 「何を理解している、何ができるか」

「知識・技能」の観点では、各教科で身につけるべきとされている知識やスキルについて、十分に習得しているかが評価の対象となります。ただし、1問1答形式で測るような単純な知識だけではなく、他の教科の知識とも結びつけて活用できるような概念的な知識も重視されます。そのためペーパーテストにおいても、出題方式が工夫されることとなります。単なる知識を問う問題に加えて、深い理解を試す文章題を使うなど、応用的な部分も含まれることになるでしょう。

また、教科によっては実験などによる評価を行うなど、教科特性に合わせて各教科等に関する個別の基礎的・基本的な知識や技能の習得だけではなく、既存の知識と関連付けたり組み合わせたりすることで育まれる、社会の様々な場面で生きて働く**知識・技能を踏まえた力をつけることをねらい**としています。

②思考力・判断力・表現力等 「理解していること・できることをどう使うか」

現代社会での「生きる力」の中でも特に重視されている問題解決能力に関する力と言えます。問題を見つけた時に論理的に考えて解決まで導ける力や、仲間と協力しながら問題に取り組むために、自分の意思・意見をわかりやすく伝える等の表現力の獲得を目標とします。各教科の知識や技能を問題解決に向けて有効に使えることも大切になるでしょう。そのため、具体的な評価方法はペーパーテストに限りませんグループでのディスカッションや発表、レポートなど、各教科の特性に合わせて評価します。

③学びに向かう力・人間性等 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（「主体的に学習に取り組む態度」）

教科教育にとられない、より広い意味での人間教育についての目標です。多様性を理解して仲間と協力する力や、自分の感情をコントロールする力、優しさや思いやりなど豊かな人間性のベースとなる資質や力を伸ばすことに重点が置きます。また、そのために学習に主体的な態度を持つことが重要です。「主体的に学習に取り組む態度」は現在の「関心・意欲・態度」の評価観点に対応するものですが、評価軸はこれまでとは多少違ったものとなります。本観点に基づく評価は、2つの側面を評価することが求められています。

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることにむけた粘り強い取組を行おうとする側面
- ② 粘り強い取組を行う中で、子どもたちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながらその過程を評価して新たな学習につなげる側面。

受動的にただ言われたことを学ぶのではなく、主体的に学習に取り組む態度も含めた学ぶ力の育成と様々な人々と互いの良さを引き出しながら協働する力、持続可能な社会づくりに貢献する力、リーダーシップやチームワーク、豊かな感性や他者への思いやりの心などを育てることを目標としています。ノートやレポートにおける記述、授業中の様子（発言や行動観察）児童による「振り返り」や「話し合いでの様子」等をふまえて、単元や題材のまとまりを通して評価を行います。

これからの時代に求められる資質・能力を育成するためには、「どのように学ぶか」という点も大変重要です。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点で、子どもたちの学習方法を変える授業改善について重視しています。

「主体的な学び」学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら見通しをもって取り組み、自己の学習活動を振り返ってつなげる学び。

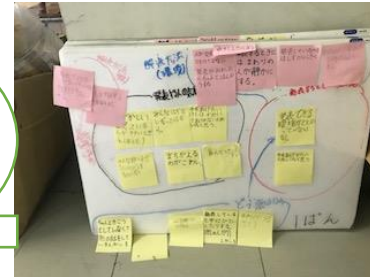
「対話的な学び」子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えることで、考えを広げ深める学び。

「深い学び」習得・活用・探究という学びの中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を形成し、問題を見いだして解決策を考えたり、創造したりする学び。

これらを総合したものが「主体的・対話的で深い学び」の視点であると文部科学省は言っています。

複数人で協同して学習する「主体的・対話的学び」によって、一人で能動的に学習する「自立学習」では培えなかった、「何をやるか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視することで、社会的能力や経験、教養を身につけ、深い学びにつながることが期待されています。

みんなの思考を整理しながら・・・



東丘小学校では

「今回の改訂で注目すべきことは、従来の学習指導要領の中心だった「何を学ぶか」に加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」といった視点で普段の授業を見直すことが求められている点です。

本校では、こうした新学習指導要領の方向性を念頭に置き、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業の在り方について、これまでより研究研修を行い、授業改善に努めてきました。本校の児童のようすをふまえながら、指導の重点を検討しています。本年度は、「つながる」「主体的に」をキーワードに授業を中心に子どもたち一人ひとりが持てる力を発揮し、ともに高め合う「学び」をめざしています。

「自分はどうか考えるか、なぜ、自分はそう考えるか」ということから自分の考えを表現する。また、話し合い、聞き合うことで他者と自分の考えをつなぎ、「課題となることごとを整理していく」「課題解決に向けて協働する」「ものごとを創造していく」そんな力につなげていく授業のあり方について研究をすすめています。子どもたちにこれからの時代の「生きる力」を育てていきたいと思えます。そのためには、学校での学びを日常生活で活用したり、ご家庭での経験を生かしたりすることもとても大切です。お子さんの学校での話にじっくりと耳を傾けてあげてください。保護者の皆さまの子どもたちへの働きかけがこれから社会で必要になる力を育てる上で原動力となります。ご理解とご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

東丘小学校 めざす子ども像

- 学びを深める子ども
よく考え、表現し自ら意欲的に学ぶ子ども
- ともに伸びようとする子ども
お互いのよさや違いを認め合い、仲間としてつながり高め合える子ども
- すすんでチャレンジする子ども
主体的に課題となることを見つけ、解決に向けて、最後までやりとげる意欲のある子ども

